

Title	WHO 本部インターンシップ報告
Author(s)	石川, 祐実
Citation	目で見るWHO. 2018, 65, p. 29-31
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86623
rights	
Note	

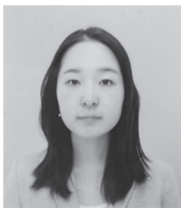
Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

WHO 本部インターンシップ報告

大阪大学大学院国際公共政策研究科 博士前期課程 石川祐実

	兵庫県出身 高知大学卒 2017年9月 ロンドン大学キングス カレッジ国際保健修士課程修了 2017年 9月-12月 WHO 本部 Health Workforce 部にてインターン
---	--

はじめに

私は2017年9月から3か月間、スイスのジュネーブにある世界保健機関本部のHealth workforce departmentにてインターンシップを経験しました。インターンシップの前にはロンドン大学キングスカレッジ国際保健修士課程にて保健医療人材教育を専攻していました。今回のインターンシップでは、主にユニバーサルヘルスカバレッジを達成するためのGlobal Competency and Educational Standards Frameworkを作成するプロジェクトを担当しました。



Health workforce department の上司や同僚と

A Global Competency and Educational Standards Framework for Universal Health Coverage

このプロジェクトの目的は、ユニバーサルヘルスカバレッジの達成に向けて保健医療人材教育の側面からアプローチすることです。主にミッドレベルの保健医療人材を対

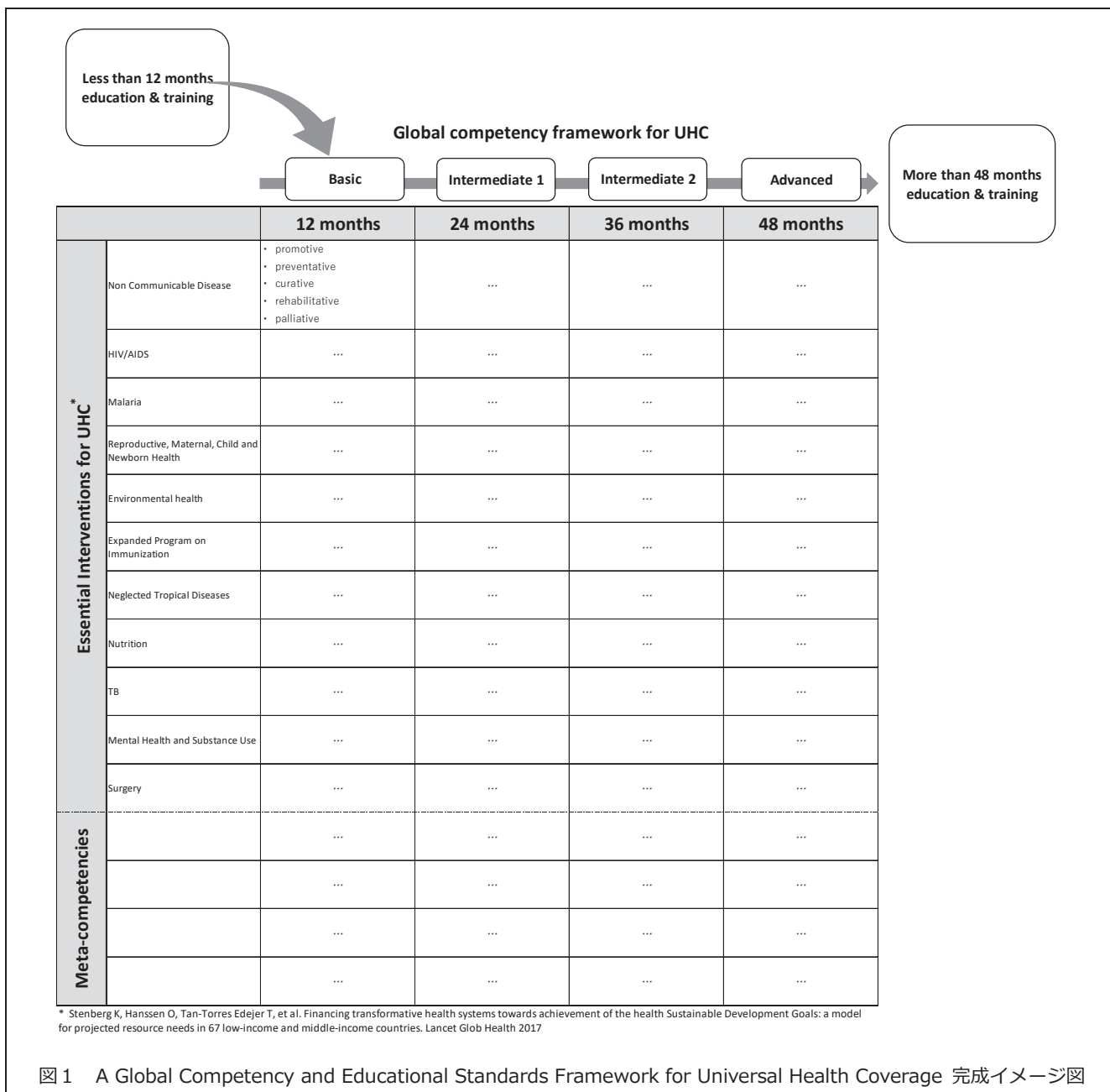
象として、ユニバーサルヘルスカバレッジの達成に必要なケアを1年間~4年間の教育で効果的に行うための指針となるフレームワークの作成を目指しています。WHO、WHO 以外の国際機関や大学などから集まった10人でチームを結成し、共同でプロジェクトを進めました。

まず、世の中に存在する100を超えるCompetency Frameworkを集め、職業別(医師、看護師、助産師など)、疾病別(癌、HIV/AIDS、メンタルヘルスなど)、職業及び疾病別に分類しました。その後、それぞれのフレームワークの特徴や含まれるCompetency、その選定方法などをまとめ、今後どのようにフレームワークを作成していくのかを検討しました。

その後、チームでここまでのプロジェクトの過程を“A Global Competency and Educational Standards Framework for Universal Health Coverage Working Group Draft for Discussion”として論文にまとめ、The 4th Global Forum on Human Resources for Healthで発表を行いました。このフォーラムでは、プロジェクトに対して多くのフィードバックをいただくことができました。それらを考慮に入れたうえで2018年度より実際にフレームワークの作成が始まる予定です。



The 4th Global Forum の会場にて



The 4th Global Forum on Human Resources for Health

Health workforce department は 2008 年以來、保健医療人材の課題に対する解決策を見つけるために国際学会を主催してきました。第 4 回目となる今回は、「未来の保健医療人材を築こう」というテーマのもと、2017 年 11 月 13 日から 17 日までの期間アイルランドのダブリンで開催されました。医療、教育、労働/雇用そして財政などの分野の政策立案者や現場の実行者 1000 人以上が一堂に会し、The Global Strategy on Human Resources for

Health: Workforce 2030 and the recommendations of the United Nations High-Level Commission on Health Employment and Economic Growth 実現へむけてのアプローチ方法を議論しました。

私もこの学会に企画・運営の一員として参加し、主に 13 日に開催された保健医療人材教育のサイドイベントを担当しました。サイドイベント全体の流れを上司と相談しながら企画書を作成し、配布資料の準備などを行いました。このサイドイベントでは、保健医療人材に関する規制、保健医療人材教育における生徒の選抜方法、および Global

Competency Framework for UHC の3つのテーマを扱いました。まず各テーマのパネリストがそのテーマの現状や取り組みについてプレゼンテーションを行い、その後参加者の興味に基づいて3つのグループに分かれ、それぞれのテーマの課題やそれに対する解決策について議論しました。最後にそれぞれの取り組みへの参加希望者を確認しました。このサイドイベントには50人以上の政策立案者や現場の医療従事者が参加し、どのテーマも白熱した議論が繰り広げられました。

私たちの Global Competency Framework チームはこれまでの取り組みとこれからの計画についてプレゼンテーションを行い、チームで執筆した論文を配布しました。ディスカッションでは取り組みや論文に対するフィードバック、質問などが話し合われました。主に国ごと、地域ごとに医療水準や文化などが異なるなかでどのようにフレームワークを取り入れていくかについて議論が行われました。普段なかなか聞くことのできなかつた現場の現況やそれを踏まえたフィードバックを共有することができ、大変貴重な機会となりました。また、このサイドイベントの大多数の参加者に Global Competency Framework プロジェクトに参加したいと希望してもらえたので、サイドイベントの目的を達成できたと感じました。

おわりに

インターンシップ開始とほぼ同時にスタートした Global Competency Framework プロジェクトに参加させていただき、WHO でのプロジェクトがどのように始ま

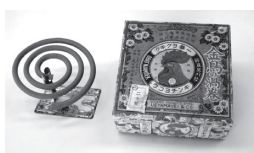
り進んでいくのかを学ぶことができました。また、決まっていなかったことが沢山ある段階から参加したことで、多くの意見を出し、能動的にプロジェクトに関わることができたと思います。一方で、複数機関のメンバーで構成されるチームの意見をまとめていくことはとても難しいと感じました。世界中に居るチームメンバーとの会議は電話会議で行っており、直接会うのに比べて意思疎通が難しいというのに加え、それぞれの分野の第一線で長年活躍されているからこそ譲れない部分などもあり、意見がまとまらないまま会議が終わることも多くありました。しかし、The 4th Global Forum on Human Resources for Health にほとんどのメンバーが参加していたので、直接問題点を話し合うことができ、それも良い経験となりました。

本格的にフレームワークの作成が始まる前にインターンシップ期間が終了してしまいましたが、ここで学ばせていただいたことを大切に、今後保健医療人材教育や国際保健分野に貢献できる人材になれるよう、引き続き頑張っていこうと思います。

最後に、このような機会を与えてくださった日本 WHO 協会様、スーパーバイザーの Mr. Dhillon Ibadat をはじめ Health workforce department の皆様、WHO 事務局長補山本尚子先生、WHO 執行理事中谷比呂樹先生をはじめ邦人職員の皆様、紅谷明様をはじめ在ジュネーブ国際機関日本政府代表部の皆様、国連日本政府代表部大使星野俊也先生、野崎慎仁郎教授、磯博康教授、その他関係者の皆様にごこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

広告

化学遺産に認定されました 【日本化学会 認定化学遺産 第041号】 『日本における殺虫剤産業の発祥を示す資料』



初期の渦巻型蚊取り線香
金鳥の渦巻



日本で初めての
エアゾール殺虫剤

ミチオール

日本の殺虫剤産業は、弊社創業者の上山英一郎と除虫菊との出会いから始まり、有用な化学製品である世界初の蚊取り線香やエアゾール殺虫剤の製品化、ならびに除虫菊に含まれる有効成分・ピレトリン類に関わる化学的研究を礎として現在に至っております。

